



「国際協力カレッジ 2021」 事業実施報告書

<目次>

- 1、本事業の目的・目標および実施概要(プログラム内容)
- 2、参加者アンケート結果
- 3、出展団体アンケート結果
- 4、アンケート結果の分析
- 5、今後に向けての課題・提案や運営上の工夫

1、本事業の目的・目標および実施概要(プログラム内容)

【本事業の目的および目標】 *業務仕様書より抜粋

「国際協力カレッジ」は、中部地域において国際的な課題に関心を持つ若年層を中心とする人々が国際協力の現場で働く人の声に触れ、考え、共に動き始める場として2006年度より実施しており、本年度で16回目を迎える。この間国際社会においては、2015年9月の国連サミットにおいて「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。2030アジェンダでは「誰一人取り残さない」を理念として、一人ひとりに焦点を当て、開発途上国のみならずあらゆる国々で取り組むことが必要とされている。また民間企業や市民社会の役割が益々高まり、あらゆるステークホルダーが連携すること(グローバル・パートナーシップ)が求められている。

上記を踏まえ、「国際協力カレッジ2021」は国際協力に関心を有する学生や市民を主なターゲットとして、世界の現状や取り組み、SDGsの達成に向けて活動する団体(民間企業、NGO、自治体や市民団体など)の紹介などを通じ、国際協力の必要性や課題を理解し、参加者一人ひとりが具体的な行動に移すきっかけを提供することを目的として、以下のとおり実施した。今回は新型コロナウイルス感染拡大を予防すべく、初めて全面オンラインにて実施した。



【本事業の実施概要(プログラム内容)】

- ・日時:2021年12月11日(土)13:00～17:00
 - *プログラム終了後、別途交流ルームあり
- ・方法:オンライン
- ・主な対象者:国際協力分野におけるボランティア・インターン・職員に関心がある、学生・若い世代
- ・参加者数:73名 /定員70名(申し込み者数:93名、出展団体含む)
- ・主催:独立行政法人国際協力機構中部センター(JICA 中部)
 - 事務局:特定非営利活動法人 名古屋 NGO センター





時間	内容
受付・案内	<p>オンラインイベントにありがちなスタート前の無声・静止画の時間を有効活用し、パワーポイントにて、当日のスケジュールや参加にあたってのお願いや案内を配信した。</p>  
開会	あいさつ・オープニング
<p>13:00～ 13:20 (20分)</p>	<p>▼開会の挨拶 【JICA 中部 市民参加協力課 課長 酒本和彦氏】</p> <p>主催者代表として、酒本課長より国際協力カレッジの概要を説明し、続けて、SDGsの達成における国際協力分野の役割について話し、開会の挨拶とした。</p>   <p>全体司会 【ココアゴラ 名古屋 NGO センター理事 市野将行】</p> <p>▼アイスブレイキング(参加者のチャットの練習を兼ねて)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、今接続している場所(地域)について 2、国際協力カレッジへの参加動機について 
1 時間目	講義『「誰ひとり取り残さない」世界を実現するために～仕事としての NGO, JICA, ソーシャルビジネス～』
<p>13:20～ 14:50 (90分)</p>	<p>1 時間目 講義スタート</p> <p>【進行:名古屋 NGO センター職員 門田一美】</p> <p>▼進め方の説明 「ゲストトーク」「小部屋トーク」の2部構成の進め方について説明をした。</p>  <p>ゲスト紹介 _____</p> <p>【NGO】近藤史門(こんどう しもん)さん</p> <p>認定 NPO 法人ピースウィンズ・ジャパンコミュニケーション部 カメラマン</p> <p>在学中のボランティア経験などを通して国際協力の興味をもち、NGO の道に進むことを決意。新卒で就職した名古屋の NGO を通じて約 3 年間エチオピアに駐在し、僻地コミュニティーでの水供給と保健衛生事業に従事する。事業地で撮影した写真や映像を用いた広報経験を生かし、昨年 10 月より現職団体に専属のカメラマンとして入職。</p> <div data-bbox="1082 1507 1513 1794" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1時間目：13：20～14：30 講義 「誰ひとり、取り残さない」 世界を実現するために 国際協力で働く ～仕事としてのNGO, JICA, ソーシャルビジネス～」</p> </div>



【JICA】北口喜教(きたぐち よしのり)さん



JICA 中部 研修業務課兼市民参加協力課 主任調査役

2009年 JICA 入構、運輸交通分野の部署に配属。2011年からは国土交通省三陸国道事務所に出向。その後スーダン事務所、インフラ整備関連の部署、フィリピン課を経て、2021年9月から JICA 中部に配属。現在は研修業務及び市民参加協力業務を担当。

【ソーシャルビジネス】池宮聖実(いけみや きよみ)さん moily 代表



2010年～2011年にアジア、中東、アフリカ、南米などを単独で周り、貧困地域でボランティアを行う。現地で作る仕事の重要性に気がつく。2014年カンボジアのシェムリアップに拠点を構え、農村に住む人々と共にかご作りの仕事を始める。翌年日本にて moily を立ち上げる。岐阜県在住

◆ゲストトーク:現在のキャリアに至るまでの経緯やきっかけ、たいへんなこと、やりがいについて、それぞれのゲストがプレゼンテーション資料を基に話した。

<当日発表資料(抜粋)>

●近藤さん

近藤 史門の Life Journey

- 子どもの頃 家族の影響**
 - 留学経験のある両親
 - NGOのスタディツアーなどへの参加
- 学生時代 ボランティア**
 - 東日本大震災
 - 途上国出身の友人たち
 - 海外災害ボランティア
- 新社会人 現地駐在員**
 - 新卒でNGOに就職
 - 現地駐在員としてエチオピアに3年
 - 国内では広報に従事
- キャリアアップ カメラマン**
 - 自分の強みを活かしNGOワーカーとして活動したい!
 - NGOカメラマン

●北口さん

JICA スーダン事務所駐在

8 国際協力機構

●池宮さん

いつも知らないことの連続

- ・そもそも本当にお金は必要なのか?
- ・日本人の生き方が正しいのか?
- ・「自分たちはいいことをしてあげている」とか、「助けてあげてる」とか上から目線になったら終わり
- ・ずっと知ろうとする努力と、寄り添い続ける覚悟

◆質疑応答:進行役や、ZOOM のチャットにて参加者から寄せられた質問に、ゲストが順番に回答した。

・以下、質問内容と回答(一部抜粋)

Q.3 人の話の共通点として「国際協力は寄り添って一緒に考えること」であると感じた。どうしたら寄り添うことができるか、それに関連して日頃の活動で気をつけていることを教えてほしい。



A.近藤:エチオピアでの駐在時に、「対話とは向き合っているもの」から「同じ方向を向いているもの」という認識に変化した。現在は、カメラマンとして支援現場に行くことが多いが、いかに自分が同じ方向を向けるかによって、写真も変わってくる。ただし、極論を言うと全く同じ方向を向くのはできないこと(日本で生まれ育った自分が、エチオピアの農村で育った人の環境を完全に理解できるわけではない)。自分がわかっていると思ってしまうことが一番危険で、わかっていると思ってしまうと接すると信頼関係を損ねることにもなりかねないので、その点を日頃の活動では気をつけている。

A.池宮:近藤さんの意見に共感する。カンボジアは元々内戦があった国なので、理解するのは難しいと思っている。7~8年カンボジアに関わっているが、今でも仕事の仲間から「そんなことをしたら怒られるよ」と注意を受けるようなこともある。現地の方の気持ちを完全に理解することは永遠にできないと認識した上で、いかに寄り添うように努力していくかが大事。

A.北口:当たり前だがしっかりと話しを聞くことが大事と思っている。インタビューという形式で聞いても本音は言ってくれない。同じ方向を向き、時間を共有することで、理解が深まり信頼関係ができていくと感じている。

Q.活動へのコロナの影響はあるか?

A.近藤:海外に行けないことが大きな影響。NGOも支援者に活動を理解してもらう上で、広報は大変重要だが、現場に行っても写真を撮れないことで広報活動にも支障が出ている。しかし、日本人がいなくても、信頼できる現地のパートナーがいれば、活動自体は行うことができる。近年はより現地スタッフ主体で活動を進めるようになってきているので、日頃からの現地スタッフとの信頼関係が大事。

Q.言葉の壁はどうやって乗り越えたか。また女性一人で危険を感じたことはあるか?

A.池宮:カンボジアに住んでいたときは、クメール語を聞いて勉強し、日常会話はできるようになった。しかし、仕事をすすめる上で、細かいニュアンスが伝わるように、日本の習慣等に精通した通訳を依頼している。英語も上手ではないが、コミュニケーションする相手と接したい、大好きだよという気持ちで対話することで、通じると感じている。

女性であるという理由で危険を感じたことはないが、夜は外に出ない、自分がもし連絡が取れなくなったら心配してくれる友人を作る等、気をつけていた。



Q.国際協力分野で今後需要が伸びるとされるスキルは? 参加者へのメッセージと併せて。

A.北口:国際協力は専門性がなくても飛び込める分野。心が燃えるような熱い世界と感じている。医療、気候変動などグローバルな課題、ITスキルなどへの専門性があると、今後活かせると思うが、飛び込む勇氣、コミュニケーション力、チャレンジ精神があれば、楽しめる業界である。

A.近藤:参加者の方それぞれが持っているスキルがあると思うので、それを活かせる応用力が大事。国際協力の潮流も、水や食糧などのベーシックヒューマンニーズを満たす活動から変化してきているので、これがあればいいというスキルはなく、自分の特技をどう活かすかを考えることが第一歩と思う。



A.池宮：自分もスキルが元々あって、活動できているというわけではない。現地の人たちを分かって、入っていくとする気持ちがあれば大丈夫。現地に暮らし、働き、一緒に生活してみないと実際にはわからないということが多いため、一歩経験してみることが本当に大事である。

休憩 14:30~14:40 (10分)

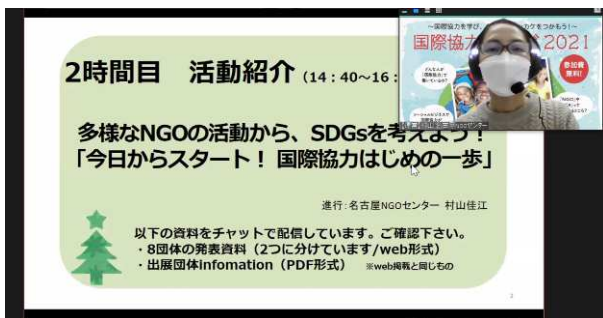
「SDGs.TV」サイトの「パートナーシップで目標を達成しよう」から以下の動画をピックアップして配信しました。

https://sdgs.tv/tg_mov/goal17

3 時間目 多様な NGO の活動から、SDGs を考えよう! 「今日からスタート! 国際協力ははじめの一步」

【司会進行】名古屋NGOセンター職員 村山佳江

・1団体につき10分間で活動紹介をした(全8団体)。 ・質疑応答はチャットのみ受け付けた。



① 【SDGs 目標 1 貧困をなくそう】 アイキャン

14:40
~
16:10
(90分)

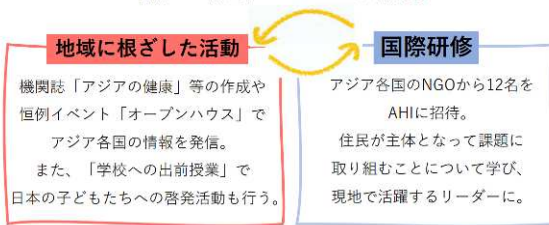


② 【SDGs 目標 3 すべての人に健康と福祉を】 アジア保健研修所(AHI)



誰もが尊重され、健康に生きられる社会に

【相互に作用する AHI の 2 大活動】



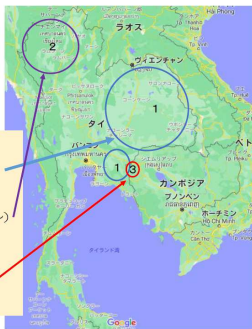
③ 【SDGs 目標 4 質の高い教育をみんなに】 キャンヘルプタイランド



特定非営利活動法人 キャンヘルブタイランド NPO C.A.N.H.E.L.P. Thailand Canada America Nippon Health Education Love Purpose

●活動地域●

- 1 タイ東北部（イサーン地方約10県）（1990年～）
奨学金 学校校舎・図書館建設 給食支援
- 2 タイ北部（チェンマイ、メーホンソーン）（2005年～）
山岳少数民族支援 学生寮「カサロンの家」
校舎・トイレ建設
- 3 カンボジア西部サンパオルン郡（2016年～）
学校トイレ、井戸建設 奨学金



タイ



奨学金
1990年から実施。2021年度は高校生約70名へ支援。毎年7月頃にタイで奨学金授与式を実施。奨学生から送られてきた手紙を名古屋に住むタイ人女性の皆さまと翻訳作業（事務所にて）



建設
1994年から実施。主にタイの東北部や北部山岳地方で図書館やトイレなどを建設



④【SDGs 目標 6 安全な水とトイレを世界中に】ホープ・インターナショナル開発機構

**認定NPO法人
ホープ・インターナショナル開発機構**
HOPE: International Development Agency

エチオピア
1 南部の農村地域で活動しています。高低差のある地形を生かした動力の要らない給水システムを建設しています。

カンボジア
カンボジア西部のボアサート州で、井戸の建設や稲作支援、学校教育支援などを行っています。またアニマルバンクといって、農業に活用する牛の貸し出しもしています。

ホープは世界の極貧層の人々への自立支援を行っています

主には右記のような支援活動を行っています！

- 安全な水の供給
- 保健衛生教育
- 学校建設・教育
- アニマルバンク
- 家庭菜園

⑤【SDGs 目標 13 気候変動に具体的な対策を】イカオ・アコ

特定非営利活動法人 **イカオ・アコ**

活動地

ネグロス島
ボホール島

団体名「イカオ・アコ (Ikaw Ako)」は現地の言葉で「あなたとわたし」

⑥【SDGs 目標 1 貧困をなくそう】セイブ・イラクチルドレン・名古屋

目標16 平和と公正をすべての人に

(特活) **セイブ・イラクチルドレン・名古屋**

国際協力カレッジ2021 12月11日(土)

**武器を持たない支援を
名古屋からイラクへ**

2015年 イラク パンムン医師からの報告

活動のはじまり

2003年のイラク戦争を機に立ち上げた私たちの会は、今年で設立18年を迎えます。イラクへ、薬剤や医療機器を寄贈や愛知県内の病院にイラクの医療人を受け入れを依頼し、医療研修をおこなってまいりました。私たちが招聘した医療人は50名を超える数となりました。その医師らは、日本滞在中は国際理解を広めるツインジャーであり、イラク帰国後は、医療技術だけでなく日本文化を伝える親善大使となる、かけがえのない友人です。

**隣人は私たちに見向きもしない
しかし7000kmも遠く離れた日本には
私たちが心配してくれる友がいる
それだけで心強い!**

これは、ISIS占領下で苦しむ医師が、日本滞在中の講演会で語った言葉です。

医療器具支援で、無事手術を受けた子供たち

⑦【SDGs 目標 16 平和と公正をすべての人に】名古屋 NGO センター（外務省 NGO 相談員）



国際協力カレッジ2021

名古屋NGOセンター
(2021年度 外務省NGO相談員)

活動内容 名古屋NGOセンターとは?

今回、国際協力カレッジの事務局を担当しています。

名古屋NGOセンターは、地域型の「ネットワークNGO」と呼ばれる42団体のNGOが加盟しているNGO（民間組織）です。

貧困、環境、開発、教育、多文化共生など様々な問題・課題に取り組むNGOをサポート・ネットワークしています。

個々のNGOだけでは取り組みにくいこと、例えば、情報発信や人材育成、政府などへの政策提言活動を行っています。

1. ネットワーク
2. コンサルティング
3. 情報発信
4. 人材育成
5. 政策提言

名古屋NGOセンター
NGOとともに、世界を変えよう!

www.nangoc.or.jp

⑧ 【SDGs 目標 4 質の高い教育をみんなに】 ル・スリール・ジャポン

2時間目
～ 活動を知る ～
「質の高い教育をみんなに」の中の「みんな」を大切に

@国際協力カレッジ BY ZOOM

アフリカで活動するNGO

ル・スリール・ジャポンは...

- 西アフリカのフランス語を公用語とする国々
- 学びたいという想いを抱えた人々のための学びの場の環境向上、構築に対して、地域の主体性を尊重し、地域と連携し取り組み、それに関わる全ての人々の笑顔に寄与

みんなが笑って暮らせる社会
↑
それぞれの目標が実現できること
↑
目標の実現のための学びの場があること

16か国

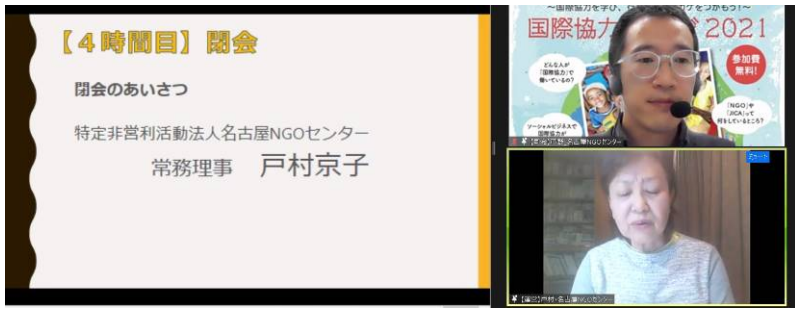
特定非営利活動法人 ル・スリール・ジャポン
Organisation Japonaise pour Vivre avec Le Sourire
石田純哉
2021年12月11日

http://ojvs.or.jp/

休憩 16:10~16:15 (5分)

4 時間目	全体会・ふりかえり／あいさつ、アンケート記入
16:15~16:50 (35分)	<p>◆ふりかえり</p> <p>参加者、ゲスト3名、出展団体と交え4-5人程度でグループを作り、以下について話し合い、振り返りを行った。</p> <p>① 今日学んだこと&印象に残っていること</p> <p>② いまから行動しようと思っていること</p> <p>感想の全体共有の場面では、参加者、団体から次のような感想があった。</p> <p>「高校生なのですが、一緒に何かを作り出すことがとても大事だと感じました。将来国際協力に携わりたいと考えており、押し付けではない一緒に作り出す支援の方法を現地の人と共に見つけていきたいと思いました。」</p> <p>「大学生のゼミで、先生から紹介され参加しました。国際協力に関する授業を受ける中で、今日のお話から生きた情報を自分の知識と照らし合わせることができ、より実感しました。現地の人のお話を理解する姿勢の大切さを学びました。」</p> <p>「グループワークで10代の熱、オンラインを超えた若い方のエネルギーを感じ、とても良い時間となりました。」</p>



<p>16:50～ 17:00 (5分)</p>	<p>◆閉会のあいさつ (特活)名古屋 NGO センター 事務局長 戸村 京子 今年度もオンラインにて開催し、半数近くが 10 代や 20 代の参加であり、非常に力をもらい未来を感じることができた。今後も、オンラインにて出来ることを検討していければと考えている。今日の内容を受け、参加者が一歩踏み出すことができることを応援していきたい。 また、コロナ禍を乗り越え、途上国の現状に対して共に解決する方向性を学びながら、国際協力に関わってくださることを願っている。</p>  <p>◆アンケート記入&今後の案内</p>
<p>17:00～ 17:30 (30分)</p>	<p>交流ルーム(居残り部屋の設置) ゲストや出展団体に聞けなかったこと、個別に対応するブレイクアウトルームを設置した。</p>

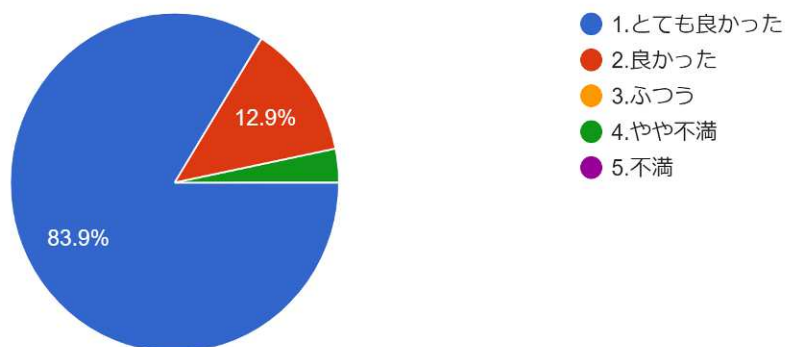
(注意) 本報告書の掲載写真に関しましては、特に参加者が特定できる写真の取り扱いにはご注意下さい。

2、参加者のアンケート結果

参加者・出展団体共にアンケートを配布し、回答を頂いたものを集計した結果である。

問1) 1時間目の講義「国際協力で働く」はいかがでしたか？

31件の回答



問2) 1時間目(講義)で印象に残った話等があれば教えてください。またよろしければ、問1の回答の理由を教えてください。25件の回答



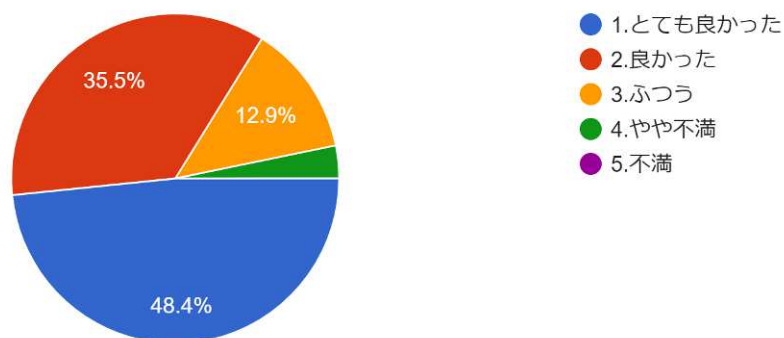
- ・ それぞれの講師の方の話が響きました。
- ・ 色々な視点の話を聞くことが出来たから。
- ・ 共に作り出すこと。
- ・ 様々な情報が収集できた。
- ・ 国際協力の第一線で活動されている方の経歴や身に付けられているスキルを伺って、自分だったら自分の強みをどのような活動に活かせるかなと考えるきっかけになりました。実際の体験談を聞けるのが何よりも勉強になりましたし、活動を身近に感じることができました。
- ・ NGO、JICA、ソーシャルビジネスのそれぞれの立場での国際協力への関わり方を知ることができたから。
- ・ 向かい合って話すのではなく同じ方向を向いて話すということ。
- ・ 向き合うのではなく同じ方向を向くという話がとても印象に残りました。そして国際協力は自分にとってハードルが高いように感じていたのですが、お話を聞いて小さなことから挑戦してみようと思いました。
- ・ 現地に行く人と受け入れる人の間に線を作らず、同じ志を持って同じ方向を向いて一緒に歩いていくことが大切だと学んだ。また、国際協力に必要なスキルなどは、日本人同士での人間関係を構築する際に必要なこととほぼ同じで相手を大切に思い、価値観の違いを受け入れることがどんな場所でも大切になるのだと思った。
- ・ 同じ方向を向く。一緒にやる。わからないことを知る。ということがとても印象的でした。現地で活動している方々の実際の声を知ることができて、とても良かったです。大満足です!!
- ・ 同じ方向を向いて話すことと、自分の強みでやっていくこと、全てがSDGsに繋がること。
- ・ 発展途上国の支援で、可哀想だから、不幸だからという理由で支援を行うのではなく、話し合いによって現地の人々と同じ方向を向いて開発を行うところが印象に残りました。お話がどれも興味深く、一人ひとりの時間が短かったのもう少し聞きたかったです。
- ・ 全てを自分たちがしてしまえば持続しないということが印象的でした。本当に相手のためになることとは何かを考えさせられました。
- ・ 貧困が必ずしも不幸ではないことと私たちがではなく現地が主体となるボランティア。
- ・ 分かったつもりでやるのはボランティアじゃないという話。
- ・ 現地の方々と解り合えたと思っても完全には解り合えないので、勝手な思い込みは危険で常に質問をして確認が必要ということ。
- ・ 将来を考えるうえで参考になれる話ばかりだったので良かった。現地住民に寄り添った支援をする話などが印象的だった。
- ・ 自分も留学に行きたいけどどんな目的で行けばいいのか定まっていなかったなので、3人方の留学に行くきっかけを聞いて嬉しかったです。
- ・ 国際協力のためには絶対に必要なことはなくて自分の強みをいかして活動できるということ。
- ・ 近藤さんの「私だからできる国際協力がある」や、北口さんの偶然の出会いが導いたこれまでのキャリア、池宮さんの「挑戦して良い、努力して良い」といったキーワードの1つ1つが強く心に印象に残りました。私だからできる事とは何かを考え、少しずつ国際協力に力を注ぎたいと改めて思いました。
- ・ 近藤さん:カメラマンとしての視点で広報についてお話して見えた箇所が印象的でした。デザイン職をしている自分にもうなずける部分や、これから自分が国際協力に関わる上でとても参考になりました。ありがとうございました。



- ・ 北口さん：JICA の魅力がとても伝わり、JICA でしかできない楽しさのようなものを感じました。JICA は現場ではなく後方支援的な役割が多い印象でしたが、そうではなく、事業の起点となる大切な役割を担っているのだと気づきました。
- ・ 池宮さん：ソーシャルビジネスをぐんぐんと推進して見える姿がとても印象的で、ぜひ今度お店にお伺いしたいと思いました。人柄もとても明るく、THE 国際協力という視点でないお話も多く、とても刺激・参考になりました。これからの自分の進路の参考にさせていただきます。
- ・ 池宮さんのお話がわかりやすく面白かったです。
- ・ 善意だけでは活動を続けていけないという moily の池宮さんのお話。
- ・ 3 人目の方の話。
- ・ 池宮さんのカンボジアでの経験がとても印象に残りました。手を差し伸べてもそれが良い方向に向かうとは限らず、長期的に物事を考えて行動していく必要があること、信頼関係がとても重要であることを知ることが出来ました。
- ・ moily 代表 池宮様より「仕事の選択肢をつくる」「一緒になって考え、信頼関係をつくる」「現地に根付くもので仕事づくりを」…というお話を伺い、技術支援や情報発信ももちろん大切ですが、この観点は私にとっては新たな考えとして定着させることができたため。
- ・ 内容はとてもよかったですのですが、質疑応答がチャットのみという点だけは改善していただきたいと思いました。時間の関係上そのような形を取られたと思うのですが、やはり文章にするにはうまく伝えられない部分もあるので…。

問3) 2時間目「多様なNGOの活動から、SDG s を考えよう！」(団体紹介) はいかがでしたか？

31 件の回答



問4) 2 時間目(団体紹介)で印象に残った話や今後関わってみたい団体等があれば教えてください。またよろしければ、問3 の回答の理由を教えてください。18 件の回答

- ・ アジア保健研修所さんの活動に関わってみたいと思いました。
- ・ AHI さん、hope さん、イカオ・アコさん、ル・スリール・ジャポンさん。
- ・ 教育に興味があったのでル・スリール・ジャポンさんのお話が印象的でした
- ・ OJVS さんのお話が印象に残りました。支援が届きにくいところを集中して活動していることや学びから幸せな暮らしの好循環が出来ることなどが特に心に残りました。

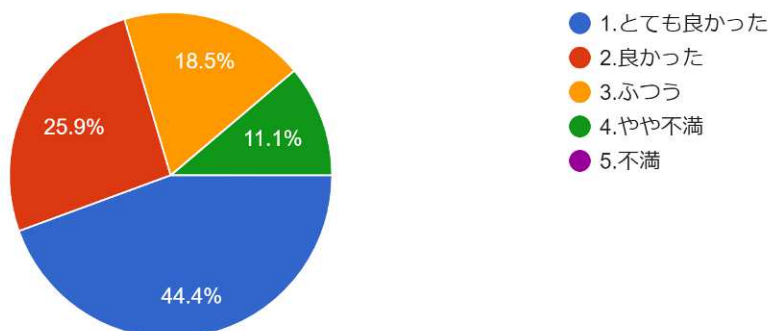


- ・ アイキャンさん、AHI さん、キャンヘルプタイランドさん、ホープ・インターナショナルさん、ル・スリール・ジャポンさん。
- ・ アイキャンやキャンヘルプタイランドなどいろんな企業にとっても興味が湧いたのでボランティアやスタディーツアーに参加したいと思いました。
- ・ イカオ・アコさん。
- ・ キャンヘルプタイランドさん。
- ・ 特に、ホープジャパンさんの活動に興味が湧きました。世界各地に活動拠点や事務所があるのも魅力だと思いました。
- ・ (特活) セイブ・イラクチルドレン・名古屋さんに興味が湧き、ぜひ今度お話を聞きたいと思いました。
- ・ 「AHI」様の活動です。数年ほど前から関わらせていただいておりますが、コロナ禍での活動報告を伺うことができ、良かったです。また気候変動問題にも関心がありますので、「イカオ・アコ」様の活動にも興味があります。
- ・ 今まで関わってきた ICAN に今後も関わっていきます。
- ・ 短い時間で多くの団体を紹介していただいたおかげで自分が特に興味のある団体を見つけることが出来たので 1 番を選びました。
- ・ 多くの団体さんがボランティア・インターンシップ生を募集されており、掃除から事務作業、現地での植林等、団体で出来る事が国際貢献に繋がるのだと思いました。私も何か一歩踏み出して、少しずつ国際貢献に携わり、活動してみたいと思えました。
- ・ 自分と同じ大学生が国際協力の場でボランティアをされていてすごいなと思いました。自分もまずはボランティアから始めたいなと思いました。
- ・ 有名な団体しか知らなかったが、実は身近にもたくさん団体があり、参加できるものも多くていい刺激になった。
- ・ 様々な団体を知り、価値観を広げるいい機会となった。どの団体の活動も自分があまり詳しくない分野の話がたくさんあって興味を持った。
- ・ 色んなことでアプローチをしてみると思ったから。
- ・ どこの団体もボランティアやインターンがあり、自分にもやれることがありそうだなと思いました。また、国際協力と言っても、幅広い分野の活動があることを知れて、良かったです。
- ・ 一度に沢山の団体のお話を聞くことができたから。団体の比較ができて良かったです。



問5) 3時間目「全体会」はいかがでしたか？

27件の回答



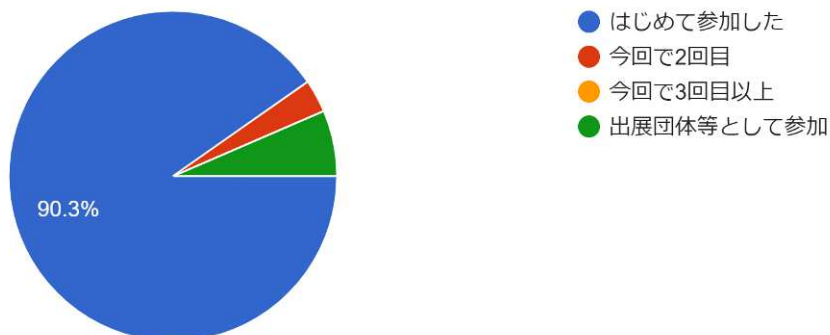
問6) 3時間目「全体会」で印象に残った話等があれば教えてください。またよろしければ、問5の回答の理由を教えてください。16件の回答

- ・ 皆様の意見が聞けて自分の考えも深まりました。
- ・ 他の参加者の方と交流することができて良かったです。
- ・ ほかの参加者の方の自分にはなかった考えを聞け、同じような思いを持っていることを知れた。
- ・ 大学生が多くて、この会に参加した理由なども交流できてよかった。
- ・ さまざまな方の考えを聞き、そこから大事だと感じることを学ぶことができたので。
- ・ 自分以外の人の意見が聞けてとても良かったです。
- ・ みなさんの思いや熱が聞けたから。
- ・ 同じテーマでも皆さん、それぞれ観点の違った意見で、聞いていてとても興味深かったです。
- ・ 他の方の話を聞いて、コロナ禍で制限されている部分もあるが、逆にそれが新たな可能性を生み出すかもしれないと学んだ。
- ・ 自分の武器というかスキルを見つけてそこを伸ばしたいと言っている方がいて、私も同じ意見だと思った。
- ・ 既に海外に行ってる人がいたり、凄いなと思いました。
- ・ 全体会では、オンライン上での学びをフィードバックする良い機会となりました。オンライン上での実施という形ではありましたが、参加された学生さんの感想、今後の国際協力に向けてどうしたいかを伺う事ができました。短い時間ではあり、なかなか深い質問を考える事はできず反省する点もありましたが、それでもお互いの考えを共有する時間を設けられたのは、ゲストの方も含めて良い時間を過ごせたのではないかと思います。
- ・ 時間がない。
- ・ 時間が少し短くて、最後の方のお話が切れてしまうことがあったのもう少し時間を長くしてもいいと思い、2番を選びました。
- ・ もう少し時間があっても良かったかも。
- ・ 自分の音声環境がうまく接続できていないようで、もがいているうちに途中で切れてしまった。



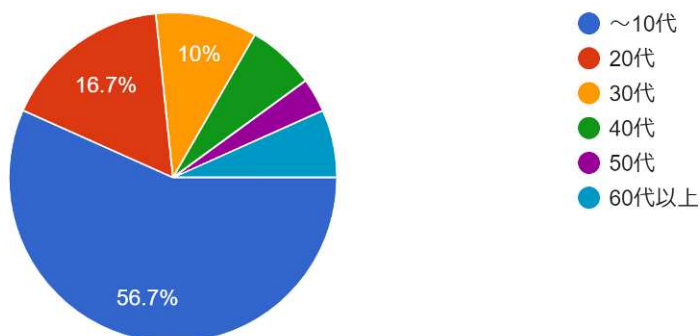
問7) 「国際協力カレッジ」への参加経験を教えてください。

31件の回答



問8) 差し支えなければ年代をお聞かせください。

30件の回答



問9) 本日のカレッジの感想やお気づきの点、また、今後参加してみたい企画のアイデア等があればご記入ください。16件の回答

- ・ オンラインスタディーツアー寄付付き。
- ・ とても良い会でした。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 本日は貴重な機会をありがとうございました。とても、勉強になりました。自分にできることを一つ一つ行動に移していきたいと思います。
- ・ 国際協力の分野での子供への関わり方、子供に関われる国際協力、心の楽しみ(映画や音楽など)という分野での国際協力。
- ・ 全体会の時間が少なく感じてしまったのでまた少人数がメインとなるような企画があればなと思いました。
- ・ 実際に現場で活動されている方々のお話を聞くことができたのでとてもタメになりました。これからの学びに生かしていきたいと思います。



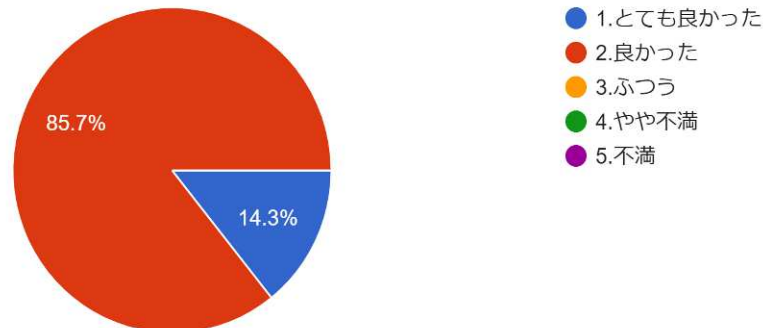
- ・ プロフェッショナルの方や、他にもこのイベントに参加した多くの方々からのお話を聞くことが出来てとても良かったです。今までは、ざっくりとしていたことが少し明確になった気がします。このような機会を用意していただき、ありがとうございました。
- ・ 居残り部屋に残ったのですが、詳しい話が聞けて良かったです。新型コロナウイルスで zoom 開催となりましたが、地方で田舎に住んでいるとどうしても主要都市で開催されるイベントには参加が出来ないので、本当に良い経験になりました。
- ・ こんなにも国際協力をしている団体があることさえ知らなかった私でもどのような活動をしているのか分かりやすかったし、私は何か国際関係の仕事をしたいと考えていたのでとても参考になる話がたくさん聞けて良かったです！
- ・ 今後も企画次第で、時間が合えば参加したいです。自分を見つめなおす機会にもなりましたので、是非検討したいです。
- ・ 事前に接続確認、参加者（我々）に発言させるのならその確認テストの時間があると良い。30 分かかってやっと接続できたが完全ではなかった。
- ・ 日常的に Zoom を使っていないのでスムーズに使えなかったが、IT 弱者切り捨てのような会にはなってほしくない。
- ・ すでになさっているのかわかりませんが、国際協力やボランティアなどに関するインターン紹介をしていただけると嬉しいです。
- ・ インターンやボランティアを考えて見える方が多いので、実際の各団体さんの事務所ツアーみたいな企画があっても楽しそうかつ有意義な時間になるのかなと思いました。
- ・ 事業所の住所もまちまちで、時間の制約もあると思いますし、コロナが収まったら・・・などなど問題があるかとは思いますが・・・。
- ・ 理由として、団体側として質問も受けた立場だったのですが、インターンをしたいと考えている大学生や高校生さんが事務所の雰囲気や、職員さんの様子が気になっている印象を受けました。おそらく人と人の距離というか、インターンをする上で、やりやすい環境か、アットホームなのか、職員さんはどんな人がいるのだろうかなどを気にされているのかな？と思いました。事務所を実際に見てもらえば少しはその疑問に対する答えがリアルに近い形で提示できるのではと思いました。
- ・ ただ、オンライン参加のみ希望の人はどう参加してもらうのかという問題もあるかと思いますが、オンラインゆえに遠方から参加しやすいというメリットは無くしたくないかと思いますが、その場合は、撮影専門スタッフもツアーに同行し、ライブ配信で対応するなどでも良いのかなと思いました。
- ・ 最後の居残り部屋が質問もしやすくて良かった。
- ・ 来年、オンラインでなく、3 年ぶりに FaceToFace で！

3、出展団体アンケート結果（意見は抜粋）

出展団体に向けたアンケートを実施し、回答頂いた。



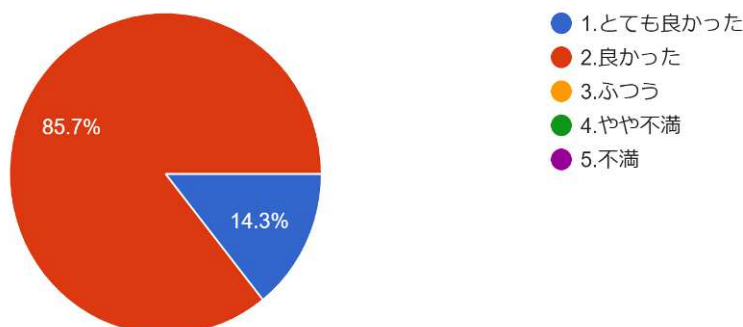
問1) 2時間目「多様なNGOの活動から、SDGsを考えよう！」(団体紹介)はいかがでしたか？
7件の回答



問2) 問3の回答の理由を教えてください。7件の回答

- ・ 緊張しました。
- ・ 他団体のSDGsに関する活動を聞いて良かったです。
- ・ なかなか10分という時間で団体紹介をするのは早口になってしまい、参加者には落ち着きがなく取られてしまったかも知れないと感じました。ですが、10分以上ですと、長く感じられ、飽きてしまうとも思うので時間の配分は難しいところとは思いますが…。改善策なく、意見だけ記載して申し訳ないです。
- ・ 参加者にとっては、発表が連続したもので、興味関心が続いたでしょうか。参加者のご意見感想をお聞きたいです。
- ・ 途中参加でしたので、少ししか他団体様のお話を聞けませんでした。プレゼン方法など参考になったため。
- ・ いろんな団体のアプローチの違いがよくわかりました。
- ・ 様々な団体の活動内容について学べてよかった。

問3) 3時間目「全体会」はいかがでしたか？
7件の回答



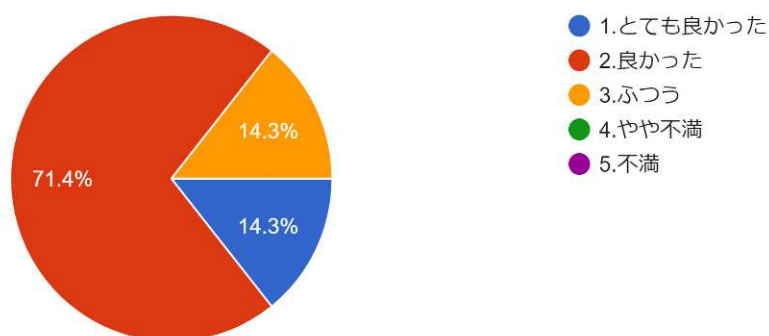
問4) 問5の回答の理由を教えてください。7件の回答



- ・ もう少し時間があつたほうが良かった。
- ・ 少し時間が短く、全員の話の聞けない時もあったので、それが少し残念でした。
- ・ 自分の考えや学びをアウトプットできる時間があるのは、とても良いと思いました。
- ・ B.O.S.は参加者側にとって「初めまして」の集まりで、ラポール形成の無い中で意見交換だったので、ファシリテーションが必要だったかもしれません。
- ・ よかったが5分という時間でのローテーションが時間余りになることが多かった。
- ・ 若い方たちの希望に満ちた言葉を聞けて、パワーをもらった感じがします。でもなんとなく各自が順番に話すというのに慣れなくて、司会のようにふるまってしまったことを反省しています。(なので、とても良かったにはできなかつた)
- ・ 参加者の学んだことと今からやりたいことを聞いて、自分たち団体として参加者と他人の興味を持つことをどう合わせばいいかを知るために良かった。

問5) プログラム修了後の「居残り部屋」はいかがでしたか？

7件の回答



問6) 問7の回答の理由を教えてください。6件の回答

- ・ 運営側に気を使わせて申し訳ありませんでした。
- ・ 参加者の方とお話する時間を持てたのは、嬉しかったです。ただ、「居残り部屋」自体に参加している参加者の方が少なく、結果1人の方としかお話できなかったため、限られた時間の中で自団体をアピールし興味を持ってもらうためには、もう少し工夫が必要だと反省です。
- ・ とても熱心に、様々な質問を皆さんしてくださって、とても大切な時間になったのではと感じました。やはり、全体や人が多いルームでは話しにくいと思いますが、今回のように任意で参加したい人だけ参加できるシステムだと少人数になり、聞きやすい環境ができたのではと感じました。
- ・ もっとお話しをしたい参加者にとっては良い時間だったと思います
- ・ 前半は誰もいらっしゃらなかつたので、身内でまったり過ごしていました。後半二人の方が来てくださったのですが、お一人は名古屋 NGO センターに紹介されてという人でしたので、具体的な関心もあり、今後につながりそうに感じます。
- ・ チャットルームよりも直接的かつ個人的な方法で出席者の質問に答えられてよかった。



問7) 「居残り部屋」に参加した参加者の人数を教えてください。

キャンヘルプタイランド	2人
イカオ・アコ	1人
ホープ・インターナショナル開発機構	2人
セイブ・イラクチルドレン・名古屋	0人
ル・スリール・ジャポン	3人
アジア保健研修所(AHI)	2人
アイキャン	2人

問8) 次回以降の「国際協力カレッジ」について、アイデアや改善点などがございましたら、お聞かせください。また今後、ボランティアやインターンなどの人材を発掘・定着させるための イベントや研修などのアイデアがございましたら、お聞かせください。3 件の回答

- ・ 当会は社会人が複数人いて、勤務経験を存分に発揮し、パワポ資料づくり、Zoom は乗り切れますが、小さなNPO 団体で不慣れだと出展を諦めてしまっているかも、とメンバーで会話してました。NPO 向けにお助け講座を作ってあげると良いかも知れません。
- ・ 高校生の参加が多くて、低年齢化しているかなと思います。学校の中の活動をもっと深めようとして、こういうところに参加してくれている部分と、自分の将来への指針を求めている部分の両方があるのだらうと思います。そういう意味では一時間目の人選？語る内容？が大切で、今回はそれに刺激を受けた人たちが多かったようです。良かったです！
- ・ AHI には早速お二人からご連絡をいただいています。18 日の初めて始めて講座をお勧めする予定です。ありがとうございます。

4、アンケート結果の分析

本事業の企画書において、達成目標およびその指標について、以下のように記載している。

(以下、企画書より抜粋)

到達目標 を測る指標	<p>参加者および出展団体に対し、実施するアンケート結果が、以下のAおよびBの3点を満たしていること。</p> <p>A、参加者が参加前と比較し、国際協力の必要性や課題に対する理解が深まったかどうか。</p> <p>1. 参加者によるアンケートのうち、1～2 時間目(講義)について、「とても良かった」、「良かった」と回答した人が、回答者数全体の 80%以上であること。</p> <p>B、参加者一人ひとりが、イベント後、具体的な行動に移すきっかけとなり得たかどうか。</p> <p>2. 参加者によるアンケートのうち、「実際に活動に関わりたい、あるいはイベント等に参加したいと思う団体が見つかりましたか?」の質問に対し、「見つかった」と回答した参加者が、回答者数全体の 50%以上であること。</p> <p>3. 参加団体のうち「活動に参加を希望する人がいた」「イベント等に参加をしてくれそうな人がいた」と回答した団体が、参加団体数の 50%以上であること。</p>
-----------------------	--

●到達目標の指標および参加者・出展団体アンケート結果について

- ・ 参加者アンケートでは、1 時間目の講義について「とても良かった」、「良かった」と回答した参加者は合計 95% 以上、2 時間目の団体紹介について「とても良かった」、「良かった」と回答した参加者は合計 83%以上で、高い

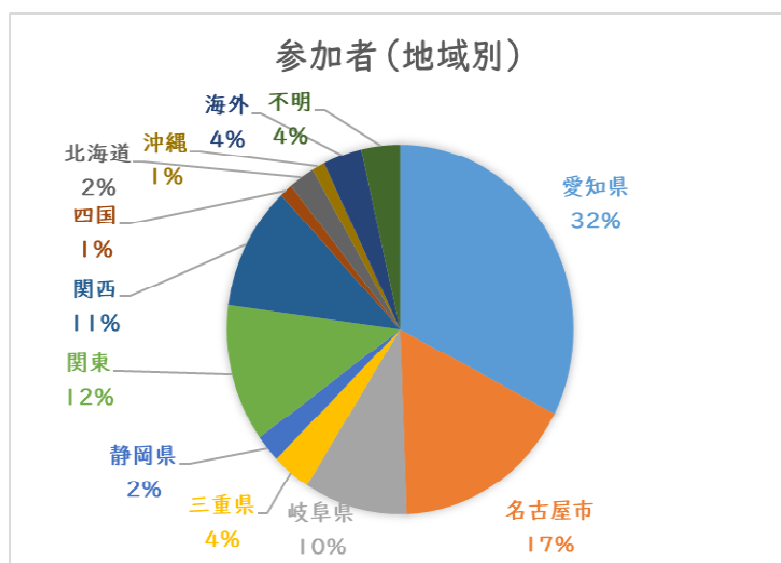


満足度を得ている。よって、A-I の指標については十分達成し、参加者の「国際協力の必要性や課題に対する理解が非常に深まった」と言える。

- 参加者アンケートでは「私もボランティアやインターンに参加したい」「興味を持った団体が複数ある」などといった感想が多数見受けられた。さらに団体アンケートでは、カレッジ当日、早速メールで参加団体へ直接ボランティアやインターンの問い合わせをくれた参加者がいたとの報告があった。よって、B の指標については概ね達成し、具体的な行動に移すための情報を提供できたといえる。
- 出展団体のアンケートにおいては、活動紹介のプレゼンについて「とても良かった」、「良かった」と回答した団体は 100%、プログラム修了後の居残り部屋について「とても良かった」、「良かった」と回答した団体は 85%と高い満足度を得ることができた。
- 過去に参加者としてカレッジに参加し、今回は参加団体としてプレゼンをするという、まさに本事業の成果ともいえる人が見受けられ、本事業の即効性の高さと「市民」と「国際協力活動」を結ぶ「懸け橋」としての存在価値と認知度の高まりを、事業の前後を通じて感じることができる。
- 次年度以降にむけて、オンラインの良さを最大限に活かした企画として、参加団体の事務所をリアルタイムで紹介してはどうかという提案があった。検討していきたい。
- イベント後一カ月も経っていない中、オンラインイベントだったにもかかわらず、既に複数の出展団体から、カレッジ参加者からのアクションがあったり、ボランティアとして既に活躍しているという感謝の声が届いている。今後も本事業が中部地域における国際協力の裾野を広げる JICA 中部の恒例事業として継続されることが、中部地域の市民や国際協力団体より望まれている。

番外編～ 参考までに、アンケートでは設置していない項目（申し込みデータ）を 3 点追記し、分析しました。
（但し、当日キャンセル者を含む）

1. 住んでいる地域はどこですか？



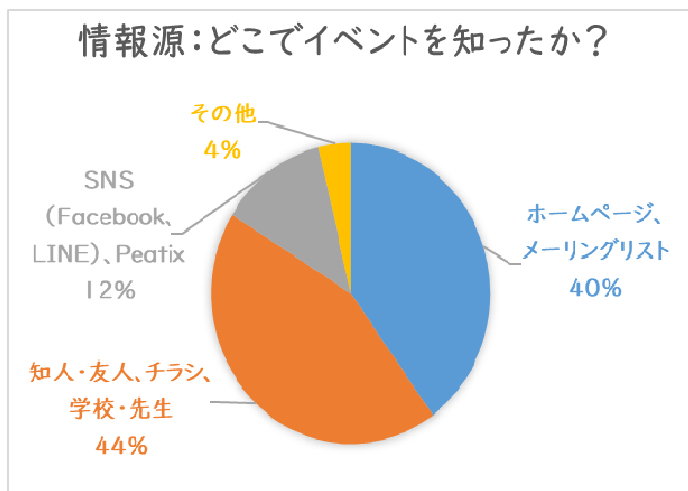
▼約半数は、愛知県からの参加者

オンラインということもあり、関西、関東など遠方からの参加者も目立ち、海外（アメリカ、ルワンダ）からの参加もあったが、名古屋市と愛知県を合わせると 49%が愛知県内、岐阜県、三重県、静岡県の 4 県を合わせると 65%であった。

遠方より集まりやすいオンラインイベントにもかかわらず、中部エリアを主な対象地域としていた目標は十分に達成できたといえる。



2. 何の媒体でイベントを知りましたか？



▼10代以下を中心に 44%がアナログ情報(チラシ、知人、学校)を經由

オンラインイベントであり、IT化、しかもオンラインイベントとはいえ、知人・友人、チラシ、大学・高校などアナログな情報媒体が合わせて 44%と半数近くを占めていた。10代以下は学校の先生や学校にあったチラシを見ていることから、若い世代ほどアナログ情報を信頼する傾向にあるともいえる。

5. 今後に向けての課題・提案や運営上の工夫

●受付について

- 先述のとおり広報は順調であり、当団体のホームページトラブルがあったものの、JICA 中部をはじめ各方面のご協力を経て、事前申込み人数は 93 名と昨年とほぼ同数であった。実際の参加者数は 73 名(出展団体の参加者も含む)と定員 70 名に対し、適切な参加者数となった。当日キャンセル率は対面イベントと変わらず、オンラインイベントとしては想定範囲内であった。(17 名)。
- ただ、大規模のオンラインイベントだったため、名簿確認(受付)は困難を極め、昨年の反省より、チャットで名前をホストに送る方式を取り入れたが、やはり当日 4 名がかりで、イベント終了後にもかなりの時間をかけて名簿の確認を行ったが、参加者の表示名が変更されていない、チャットでも名前を送れないケースもあり、ZOOM 上の羅列された参加者名から参加者を探し出すことは困難を極めた。
- 参加者確定のためには、ZOOM(メールアドレス登録型)からの参加登録が最も確実かと思われる。

●進行について

- 1 時間目と 2 時間目はブレイクアウトルームを使用しなかったため、昨年のようなロスタイムは生じなかった
- 昨年度よりも、継続して参加している人が多かったように思う。
- 全体会では、各グループの進行役として出展団体関係者にお願いをしていたが、それほど徹底されたわけではなかったため、次回以降は、進行の方法まで明確にしておく必要がある。(誰から話をするかも、番号が若い順からと明確に指示があった方が限られた時間では進行しやすかったため)
- 長時間に及ぶため、スタート前や休憩時間、終了時間を活用し、動きがあるよう、案内を動きと音声があるパワーポイントのプレゼンテーション機能を使い、参加者の継続参加を促すよう工夫を行った。

●事前準備について

- 募集段階でオンライン一本に絞ったことにより、参加者や出展団体、ゲストが安心して参加することができ、運営側もリスク管理にかかる時間を質の向上に費やすことができた。加えて、イベント情報源の多数を占めた教員・学校が、



学生に安心して積極的に参加を促すことができたという効果もあった。もし、ハイブリッド型であれば、倍の労力がかかっていたことが考えられる。今後も感染等によるリスクが考えられる場合は今回のように募集段階でオンラインか対面かに絞った方が、質の向上に集中できる。

- ・ 出展団体からの要望で急遽、プログラム終了後に交流ルームを設けた。ゲストも出展団体もすべてのメンバーが残って下さったがプログラムに記載されていなかったため満足度が高い一方で参加者が約 20 名弱と少なく、もったいなかった。今後も実施するのであれば、予めプログラムに記載したほうが参加者、出展団体にとってより効果的になると思われる。
- ・ 参加者のオンラインでの集中力や負担を考えつつ、イベントの目的を達成するためのプログラムづくりには非常に頭を悩ませたが、参加者側もオンラインイベントの参加に慣れてきたように感じた。
- ・ 全体としては昨年の経験を活かし、リハーサルについても滞りなく行うことができたが、運営事務局側のメンバーのうち 2 名は初めてのオンラインイベントの対応ということもあり、別途、経験者と綿密な打ち合わせとレクチャーを行い入念な準備を行った。

● 全体を通じて

- ・ 最後の運営側の振り返りでは、高校生・大学生など 10 代、20 代前後の参加者が増えているため、この層を意識したよりいっそうの工夫が必要ではないかという声があった。
- ・ 昨年に引き続き、JICA 担当者と綿密に相談しながら進めていくことができ、契約上では主催者と受託事務局という形ではあるが、本イベントの創設当初のように、同じ目標に向かって、ともに持てる知恵と力を合わせる「協働」事業であることを実感することができた。

以上